

なんじゃもんじゃ

ヒブワクチンと肺炎球菌ワクチン

〈ヒブ〉とは

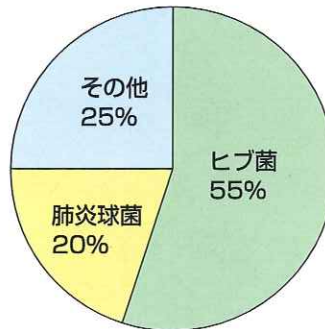
ヒブとは、ヘモフィルス属インフルエンザB型菌という細菌のことです。冬に流行するインフルエンザウイルスと名前が似ていますが、全く別ものです。ヒブによる重症感染症には、細菌性髄膜炎、喉頭蓋炎、菌血症などがあります。

〈細菌性髄膜炎〉

細菌性髄膜炎は恐ろしい病気です。細菌が髄膜に感染し、発熱、嘔吐、時にけいれんをひきおこします。日本では毎年千人が発症し、5%が死亡し、25%に後遺症が残ります。

原因菌として55%がヒブ菌で20%が肺炎球菌です。

小児細菌性髄膜炎の原因菌



小児科医師 服部 誠

ヒブ菌による髄膜炎などの重症感染症を予防するワクチンです。諸外国では、既に10数年前から導入され、日本では2008年12月から接種可能となりました。

「基本理念」

私たちは、地域住民のために、医療倫理を守り、質の高い、信頼される、思いやりあふれる医療を展開いたします。

「基本方針」

- 一、患者様の権利を尊重し、患者様中心のチーム医療を展開いたします。
- 二、質の高い医療を提供できるように研鑽に努め地域包括医療に貢献いたします。
- 三、地域住民に安心され、永く親しまれ、信頼される病院を目指します。

〈ヒブワクチン接種スケジュール〉

- ① 初回接種が生後2か月～6か月
4～8週間間隔で3回、1年後に1回 計4回
- ② 初回接種が生後7か月～11か月
4～8週間間隔で2回、1年後に1回 計3回
- ③ 初回接種が1才～4才
1回で接種終了
(年齢が高くなると接種回数が少なくなるのは、ヒブに対する抗体を作る能力が上がるためです。5歳以上では接種がないのは、ヒブ感染症が少なくなるからです。)

〈肺炎球菌感染症〉とは

肺炎球菌によってひきおこされる感染症のことです。大人の場合は肺炎になることが多いのですが、小児の場合は細菌性髄膜炎のほかに、中耳炎、肺炎、菌血症などをひきおこします。

〈肺炎球菌ワクチン〉

成人用の肺炎球菌ワクチンはすでに、日本で以前より使用されていますが、小児用とは全く違うものです。小児用肺炎球菌ワクチンは、日本では2010年2月より接種できるようになりました。米国では10年前より定期接種され多大な効果をあげています。現在では世界100カ国で承認され41カ国で定期接種されています。

〈小児用肺炎球菌ワクチン接種スケジュール〉

- ① 初回接種が生後2か月～6か月
4週以上の間隔で3回、生後12か月～15か月に1回、計4回
- ② 初回接種が生後7か月～11か月
4週以上の間隔で2回、2回目の接種から60日以上間隔をあけた1才以降に1回、計3回
- ③ 初回接種が1才
60日以上の間隔をあけて2回
- ④ 初回接種が2才～9才
1回で接種終了

〈副作用〉

両ワクチンとも副作用は、他の予防接種と同程度です。

〈接種間隔〉

両ワクチンとも同時接種可能です。次の他の種類の予防接種までの間隔は、1週間以上あれば接種できます。

〈費用〉

ヒブワクチンも小児用肺炎球菌ワクチンも現在のところ任意接種で実費負担となります。高価なワクチンですのでこども手当てをあてるのもよいですね。両ワクチンとも当病院で接種可能です。詳しくは小児科までお問い合わせ下さい。



「当院の救急診療について」

先日「広報えな」にもありましたが、恵那市内の救急出動件数は年々増加しています。平成21年度の救急出動件数は2018件、搬送人員は1928人でした。これは1日平均で約55件、約4時間に1件の割合の出動となります。同様に当院の救急車受け入れ件数も年々増加しており、昨年度当院では、恵那市だけでなく中津川市からも含め、計1083件の救急車を受け入れました。そのうち約50%が入院となっております。そこで、今回は当院の救急診療についてお話ししたいと思います。

〈当院の救急診療の基本方針〉

- ・ 恵那市における二次救急医療機関として、救急搬送の依頼については全例引き受けることを原則とします。他院からの救急患者紹介に関しても、全例引き受けることを原則とします。
- ・ 迅速な診断、初期対応を心がけ、患者様の治療基本方針を迅速に決定します。
- ・ 診療時間内においては、救急担当医により最優先で救急患者の診療に当たります。また病院前情報にて迅速な対応が必要と判断された場合は、その関係部署に前もって連絡を入れておき、緊急で対応できる体制を整えておくとともに、最優先で対応します。
- ・ 他院へ患者様を救急搬送を行う場合は、必ず医師が同乗し、責任を持って搬送します。



〈当院の救急診療の特色〉

当院の特色として、患者様のどんな訴えにも対応するプライマリ・ケアに精通しているスタッフが多く、総合的な診断力に關しては十分な能力を備えています。そのため救急診療においても迅速な診断かつ総合的な判断が可能です。診断結果に基づき、十分な説明を行い、患者様本人、家族の方の意向などを充分尊重して、その後の治療方針を決定しています。また、その迅速な判断を可能とするため、当院では夜間の診療時間外を含め常時緊急血液検査、心電図、レントゲン、超音波、CT、MRI検査が可能で、緊急性のある症例に対しては全ての検査を優先して早急に行える体制をとっています。そのため、来院後約50分程度以内で緊急性のある急性疾患のおおよその診断ができています。

〈当院の院内外の活動〉

当院の救急診療レベル、救命率の向上と、心肺停止患者に遭遇した時に医療職員として救命処置行為を行うことができる人材を育てるために、定期的に院内救急救命講習会を開催しています。また、救急隊、恵那医師会の先生方を交えて、救急搬送症例の検討会も定期に開催しており、恵那市消防本部の救急救命士の病院研修にも協力しています。

「5kmという時には恵那病院に行けば適切に対応してもらえらる」と、全ての地域住民の方々に頼りとされる病院になるよう、今後も救急診療体制の充実を図っていききたいと考えております。これからもよろしくお願い申し上げます。

救急対策委員会委員長 高橋春光

健康福祉祭

平成22年6月、恵那市主催による健康福祉祭に参加しました。健康福祉祭とは1年に1回恵那市内で行われるお祭りです。その名のとおり健康や福祉に関するイベントです。今年度においては市立恵那病院も含め29団体の参加がありました。

市立恵那病院のコナーは測定部門として、①身長体重測定、②血糖測定、③ストレス測定、④筋力測定、⑤筋力アップ実演指導、⑥骨密度測定を実施し、市内、市外合わせて223名の方が測定していただきました。

また、市民の方々の悩みを気軽に相談して頂くコーナーとして医師相談、禁煙相談を設け多くの方が利用されました。

さらに、今年初めての試みである、子供や大人を対象とした「白衣に着替えて写真撮影」を行いました。普段は恐いお医者さん、看護師さんを身近に感じてもらうと企画したもので、多くの子供たちが白衣に着替えて笑顔を見せてくれました。(中には8歳のおじいちゃんも参加してくれたんです。)この中から、将来本当の医師、看護師をはじめとした医療従事者を目指し共に恵那市の健康を守ってくれる子供がいることを願っております。



市立恵那病院は多くの市民の方々の声に耳を傾けるため、他の行事への参加や出前講座の実施を行っております。今後も地域の皆様が利用しやすい、親しまれ、信頼される病院となるよう努力してまいります。

広報委員会 吉村和広

出前講座のご案内

市立恵那病院では出前講座の開講に参加しております。出前講座とは市民、市や民間企業などの職員が講師となって皆様の地域へ出向き専門的な立場から話をしたり、体験してもらおうと恵那市が主催しているものです。出前講座は全体で179講座が開講されており、市立恵那病院としても14の講座を職員により開講しております。昨年度は13回の依頼があり皆様のもとへ出向き講演などを行いました。左記の講座をご用意しております。また、これらの講座以外にもご要望があればお気軽にご相談ください。

| No | 講座名 | サブタイトル | 講師(役職) |
|----|--------------------|--------------------------|---------------------|
| 1 | 市立恵那病院の姿を知ろう | 新しくなった恵那病院の施設見学をしよう | 細江雅彦(管理者) |
| 2 | 「食べること」の介護講座 | 楽しく、安全に食事をしましょう | 渡辺(看護師) 森(言語療法士) |
| 3 | 人間ドック紹介 | 健康は自分で守ろう | 山田誠史(総合診療部長) |
| 4 | 物忘れチェック講座 | 老年期痴呆の早期診断 | 細江雅彦(管理者) |
| 5 | 脳卒中の初期診断 | 5つのこんな症状に注意 | 細江雅彦(管理者) |
| 6 | 肺がん・肺炎について | 肺がん・肺炎についてもっと知りましょう | 近藤芳正(副病院長) |
| 7 | 乳癌の見つけ方・治し方 | 乳癌は女性に一番多い癌です | 浅野雅嘉(病院長) |
| 8 | 胃癌・大腸癌の見つけ方・治し方 | こんな症状があったら病院にかかりましょう | 浅野雅嘉(病院長) |
| 9 | 傷の新しい治し方 | 「傷は消毒しない。水洗いで十分です」ってほんと? | 太田博彰(手術部長) |
| 10 | 転倒予防教室 | 寝たきりの原因の第2位は | 熊木泰三(リハビリ室長) |
| 11 | 蜂にさされてショックにならないために | アナフィラキシーショックの予防など | 吉田 力(総合診療科長) |
| 12 | 和食最高 | やっぱりあった長寿の秘訣 | 細江雅彦(管理者) |
| 13 | 温泉入浴の楽しみ方 | 温泉の効用・入り方・楽しみ方を知る | 細江雅彦(管理者) |
| 14 | お茶の話 | お茶の効用について | 細江雅彦(管理者) |

お問い合わせ先 恵那市病院管理課
電話(0573) 4311265